

ごあいさつ

この度クリニックビル3Fの歯科が2月29日（日）より「いとう歯科」として再開いたしました。北代先生が進めてこられた地域医療を継承し、先進医療を提供していきたいと思えます。また、定期健診、治療途中、入れ歯や差し歯でお困りの方、痛みのある方などどうぞ安心して御来院ください。「いとう歯科」ではお口の中で使用する器具を完全滅菌しております。人は様々な微生物やウイルスを持っています。患者様に使用する器具を滅菌する機械が正常に働いているか、月に1度サンプルをアメリカの検査機関に送って調べています。手指は、オゾン循環方式で除菌効果の高いオゾンエアータオルを使用したのち歯科用グローブをして治療することなどにより、院内感染を防止しています。また、痛みの少ないように治療するため、表面麻酔をしてから細い針を使って浸潤麻酔します。

歯には、いろいろな痛みの表現があります。歯が「ズキズキする」「浮いた感じがする」「嘔むと痛む」などがありますが、とくにこの季節、気温も下がり、山では雪が降り、水も冷たくなると「水を飲んだり、うがいをするとしみる」という方が多くなります。歯には見える部分（歯冠）と、見えない部分（歯根）があります。一番外側の白い部分がエナメル質で、水晶と同じくらい、かなり硬い部分です。その下に少しやわらかい象牙質があります。その中には歯髄があり、神経と血管が入っていて、歯に栄養をあたえています。歯の根はセメント質で覆われていて、歯根膜というある種のクッションを介して歯槽骨の中に埋まっています。この象牙質やセメント質が不当なブラッシングや歯周病などにより露出してしまい、これらの表面に外来刺激が加わると電撃性で一過性の痛みが現れます。これが、よくテレビなどで言われている「知覚過敏症」です。治療方法は大きく分けて3つあります。1) 保存療法…薬剤塗布、歯磨き粉などにより露出した表面をコーティングする。2) 充填法…しみるところを削って詰める。3) 歯髄除去療法…1) 2) で症状が改善されないとき、歯の神経をとる。まず、どのくらい痛みがあり日常生活に影響しているか検査し可能ならば保存療法からはじめます。症状が改善されないときは、2) や3) の方法も行ないませんが、歯は、神経をとってしまうとどうしても寿命が短くなります。保存療法や充填法で済むように定期的に歯周病の検査や正しい歯のおそうじのやり方を受診してください。最後になりましたが、「いとう歯科」は地域のみなさまの健康に少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。

